

## 世界 World Winter Cities Association for Mayors T市長会 広報誌



〈世界冬の都市市長会事務局〉

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市総務局国際部内 TEL 011-211-2032 FAX 011-218-5168 e-mail:wwcam@city.sapporo.jp URL:http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/

## 第16回世界冬の都市市長会議実施報告 〜韓国・華川郡で開催〜

2014年1月16日から18日までの3日間、韓国・華川(ファチョン)郡で第16回世界冬の都市市長会議が開催され、4カ国12都市から60名が参加しました。

「冬の都市におけるありのままの自然と資源としての自然を保全し、それらを将来に渡って活用していける有効な方法について」をメーンテーマに、自然環境を保全しつつ、それをまちの魅力づくりにどのように活用していけるかについて各都市が事例報告を行いました。

また、2012年の第15回市長会議で採択されたウランバートル宣言に基づく環境保全に関する行動目標の設定及びその 達成に向けた取り組みについて、各都市がその最終報告を行い、環境保全が国の違いや都市の規模を超えた共通の課題で あることを再認識しました。

### 第16回世界冬の都市市長会議の開催概要

○ 会期:2014年1月16日(木)~18日(土)

○ 会場:西華山(ソファサン)会議場 [韓国・華川郡]

○ 主な行事

開会式、総会、市長会議セッション、環境保全小委員会、市長ディスカッション、やまめ祭り視察、全体会議、閉会式

## 華川宣言と決議を採択

最終日には全体会議が開催され、華川郡及び事務局から提案された華川宣言及び決議が満場一致で採択され、同郡首及び世界冬の都市市長会会長(札幌市長)が宣言文に署名しました。

2004年に米国・アンカレッジ市で開催された第11回市長会議において、参加者が氷河の溶解を目の当たりにし、切迫した地球温暖化に対する取り組みの必要性を認識しました。このことを契機に、その後の市長会議では環境保全をテーマに議論を重ねてきました。

環境問題は将来にわたっても解決に向けた取り組みの継続が求められる普遍的な課題であることから、華川宣言では「今後も温暖化対

策やエネルギーのあり方などの環境問題について検討し、世界に向けて発信し続けていく」こと、さらに「冬の都市こそが国際社会の先頭に立って取り組むべき立場にある」こと、「各都市がこの課題に対し最大限の努力で取り組んでいく」ことを確認しました。



華川宣言を披露する鄭甲澈(チョン・カプチョル)華川郡首 と上田文雄札幌市長(左)

#### ☆会議参加都市(4力国12都市)

71		
国 名	都 市 名	
	長春市、ハルビン市、ジャムス市、 鶏西市、チチハル市、瀋陽市	
日本	松本市、札幌市	
韓国	華川郡、麟蹄郡、太白市	
フィンランド	ロバニエミ市	

※フィンランド・ロバニエミ市はオブザーバー参加



参加都市代表者による記念撮影

#### 華川宣言

やまめの棲む美しい川、そしてその清らかな流れの源となる豊かな自然を有する華川の地において我々は、環境への負荷の少ない都市活動の実現が冬の都市に 住む者にとって重要な課題であることを再認識した。

2004年開催のアンカレッジ会議の参加者は、地球温暖化の進行による北極圏の 氷の溶解を目の当たりにした。それ以降、市長会議では温暖化対策、環境保全、エネルギー対策など環境問題をテーマとしてきた。

切迫した温暖化対策への取り組みの必要性を認識することになったアンカレッジの氷河からちょうど10年、韓国最大の冬の祭りで賑わう北漢江を前に我々は、このありのままの自然を維持しながらそれを資源としてまちの活性化にどう生かしていけるかという新たなステージに進むことができた。

温暖化の影響を強く受ける世界の冬の都市にとって、その解決が共通の課題であると強く認識されたことを契機に活動の中心として進められてきた環境問題は、将来にわたっても解決に向けた取り組みの継続が求められる普遍的な課題である。

我々は、未来を引き継ぐ青少年の環境への意識醸成に努めつつ、さらなる段階に向けて今後も温暖化対策やエネルギーのあり方などの環境問題について検討し、世界に向けて発信し続けていくとともに、冬の都市さかでから発生のた頭につて取り組むべき立場にあることを改めて確認し、各都市がこの課題に対し最大限の努力で取り組んでいくことを、世界冬の都市市長会としてここに宣言する。

### 市長会議

自然環境を保全しつつ、それを「都市の魅力づくり」「観光産業の促進」の2つの視点でまちの活性化にどう生かしてい けるのか、各都市の事例を発表しながら学び合いました。

### セッションA ~ 資源としての自然を活用した観光コンテンツの充実と観光産業の促進 ~ !

札幌市 1950年に始まった雪まつりの新たな取り組みとして、昨年の雪まつりで大雪像を使ってプロジェクション・ マッピングを実施した。さらにそうした取り組みが認められて2013年11月にユネスコ創造都市ネットワーク へのメディアアーツ分野での加盟が実現した。

**華川郡** 2003年に初めて開催されたやまめ祭りは年々来場者数を伸ばし、現在では毎年100万人以上が訪れる韓国を 代表する冬の祭りになった。祭りの発展には住民の協力が不可欠であり、祭り会場への入場料の一部を華川で使 える商品券として還元し、地域経済の活性化にも寄与している。

長春市 1998年1月に初めて「アイス&スノーフェスティバル」を開催し、今年で17回目の開催となる。祭りを盛り上 げるため、プロスポーツや市民向けスポーツのイベントと連携し、国際交流による祭りの魅力アップにも力を入 れている。祭りの活性化は、観光の活性化に寄与している。

ハルビン市 毎年1月に国際氷祭りを開催している。ハルビンの冬は厳しいが、夏のハルビンは過ごしやすく避暑地として も有名である。「東と西が出会う町」ハルビンでは多様な文化を楽しめる。

鶏西市 ロシア沿海地方に接するという特性を生かして、国境観光都市を目指している。鶏西は中国の書道を大きく発 展させた地域のひとつであり、歴史的に重要な地でもある。

**Fチハル** 「中国の丹頂鶴のふるさと」として知られており、丹頂鶴を中心にしたエコツーリズムが観光の柱である。チチ ハル周辺には朝鮮族、モンゴル族などたくさんの民族が居住しており、これらの居住地を訪れるツアーも人気が ある。

**瀋陽市** 貴重な歴史文化遺産を活用した観光に加え、雪を活用した観光にも力を入れている。冬の祭りや多彩なスキー 場、効能豊かな温泉も楽しむことができる。

松本市 観光客数が落ち込む冬の誘客対策として、高さ8メートルにもなる雪の壁を見るツアーなど雪を生かした観 光資源の発掘に取り組んでいる。これが地域観光に定着し旅行商品に付加されることで、観光の活性化につなが ると考えている。





Winter is vit Winter Croes Association for Mayors Macs Conference in Hwacheon 2014

やまめ祭りを活用したまちづくりを語る鄭甲澈(チョン・カプチョル)華川郡首

## セッションB ~ 自然環境保護活動を通した「冬の都市」のイメージアップ ~

ジャムス市 急速な都市化と産業化の進展により、環境への負荷を低減しながら新たな産業を育成していくことが求めら れている。大気汚染物質の削減目標設定や水資源の汚染防止強化など環境保護の取り組みを進めている。

| 麟蹄郡 | EM(Effective Microorganisms)菌という人に有為な微生物を活用した環境保全活動を行っている。EM菌 を用いることで低コストで環境汚染源を浄化することができ、家庭でのEM菌利用も促している。

## 環境保全に関する行動目標の最終報告

2012年1月のウランバートル市長会議で、エネルギーと熱の効率的な利用及び省エネルギーに関する市民への啓発活 動について、各会員都市が可能な範囲で数値目標を設定して取り組むことが決定されました。目標を設定した長春、ジャ ムス、札幌、華川から、達成に向けた取り組みの成果を報告しました。

#### ☆ 各都市の行動目標と取組結果(一部抜粋)

行動目標	取組結果	
都市環境、インフラの整備を行い、生活環境のさらなる向	2013年、二酸化硫黄排出量7,676トン、窒素酸化物排出	
上を目指す。(2015年までの目標)	量8,061トン削減し、前年を上回る削減を達成。	
[中国·長春市]	天然資源の消費を抑える市民向け啓発活動を実施。	
廃熱利用によるヒーティング 425万平方メートル	廃熱暖房面積 430万平方メートルを達成。	
[中国・ジャムス市]		
学校など市有施設における太陽光発電導入	2013年12月末時点で、126カ所、1,905 KWを達成。	
180カ所、約2,600 KW(2014年度末までの目標)		
[日本·札幌市]		
ピークシーズン(6月~9月)における公共施設の電力使用	郡庁舎の照明のLED化などにより、2012年は対前年比	
を毎年5%削減する。	6%減、2013年は対前年比2%減を達成。	
[韓国·華川郡]		



エネルギーの有効利用について報告するジャムス市の孫振勇副市長

このほか、行動目標を設定していない都市からも、日照時 間の長さという地域特性を生かした太陽光発電の促進(松 本市)、河川の水質保全のための下水最終処理場の整備(鱗 蹄郡)、自動車の排気ガス規制などによる大気汚染対策(瀋 陽市)など、各都市が進める環境対策や再生エネルギーの活 用事例を紹介しました。

## 市長ディスカッション

世界冬の都市市長会の前身である「北方都市会議」創設の時から、本会は都市が抱える課題について市長同士が対面で 率直に語り合い、お互い学び合うことを特徴としています。会員都市の市長が一堂に会するこの機会に「市長ディスカッ

ション」を開催し、市長同士がまちづくりの課題やまちの将来を語り、よりよい まちづくりへのヒントを得ることができました。

ハルビン、瀋陽など中国の都市では、経済発展や都市化の進行により環境保 全の必要性が高まっていることに加え、交通渋滞を解消するために、公共交通 や道路網など交通インフラの整備も大きな課題となっています。やまめ祭りで 有名な華川、サンタクロースのふるさととして知られるロバニエミでは、この ような地域の観光資源を有効に活用した観光振興策を模索しています。

また、松本では目指すべき将来の都市像を「健康寿命延伸都市・松本」として 位置づけ、「健康」に視点をおいた施策を展開しており、麟蹄では古くからある 市場や地元経済を活性化させるための方策を進めるなど、特色あるまちづくり を展開しています。



「健康」に視点をおいたまちづくりを紹介する菅谷昭

## 4 ● 世界冬の者で市市長会広報誌

## 「環境保全小委員会」最終報告

中国・長春市が事務局を務める環境保全小委員会から、これまでの活動成果について最終報告が行われました。①冬期の大気中に浮遊する微粒子物質(PM)の発生源分析、②融雪剤の使用による環境悪化、という2つの環境保全に関するテーマを掲げ、調査・分析を進めてきました。この小委員会は、2010年のマールドゥ市長会議で設立され、同年7月のウランバートル実務者会議以降、5回の報告を行ってきました。

#### ① 冬期の大気中に浮遊する微粒子物質(PM)の発生源分析

PM10分析用ソフトウェアを開発して長春市内の大気分析を行い、特徴、成分比率、発生源を把握しました。暖房期と非暖房期とではPM10発生源の割合に違いがあり、暖房期では風によって巻き上げられるほこりが一番多く、次いで道路のほこり、工場から出る石炭燃焼灰の順で、非暖房期では道路のほこりが一番多く、工場から出る石炭燃焼灰、車の排気に含まれるほこりの順であることが判明しました。PM2.5についても、春と夏に大気モニタリングを行い、これに基づく市内の大気汚染の防止・緩和対策を行いました。

#### ② 融雪剤の使用による環境悪化

塩素系融雪剤による環境への悪影響について、水質や土壌のデータ分析を行うとともに、環境配慮型融雪剤に関する市場調査を行い、環境・経済・社会的効果の分析を行いました。地元企業と共同で環境配慮型の「非塩素系融雪剤」と「カルシウム・マグネシウム・アセテート(CMA)融雪剤」を開発し、併せて融雪剤汚染や無機融雪剤による環境悪化への対策を策定しました。新たに開発した非塩素系融雪剤は液体型で、既存車両でも散布可能であり、価格は従来の融雪剤と変わらないため、腐食による補修費用などを含めたトータルコストを大きく低減できることが期待できます。



環境保全小委員会の最終報告を行う凌正凱長春市環境 保護局党委副書記

## 世界冬の都市市長会PRプロジェクト広報館

にぎやかなやまめ祭り会場の中央部に位置する「オルコミ城」という雪で作られた建物に広報館を設置しました。各会員都市のプロモーションビデオを放映し、やまめ祭りを訪れている観光客に市長会の魅力を伝えました。また、華川、札幌、ハルビン、及びカナダのケベックシティで開催される冬の祭りを3D写真で紹介するコーナーも設けられました。やまめ祭りには今年も100万人以上の観光客が来場し、たくさんの方々に冬の都市をアピールすることができました。



にぎわいを見せるPRプロジェクト広報館

## 次回市長会議開催都市「札幌市」の紹介

2016年の第17回市長会議は、札幌市で開催されます。札幌での開催は、1982年の第1回市長会議以来、34年ぶりとなります。

札幌市では、市民の創造性やアイデアをまちの活力と経済活性化につなげていく「創造都市さっぽろ」の取り組みを進めています。その一環として昨年のさっぽろ雪まつりから新たに始まった大雪像を使ったプロジェクション・マッピングなどの取り組みが認められ、2013年11月に世界で2都市目、アジアで初めて、「メディアアーツ都市」として、「ユネスコ創造都市ネットワーク」への加盟が認定されました。

また、「創造都市さっぽろ」の象徴的イベントとなる「札幌国際芸術祭2014」が2014年夏に開催されます。この夏、そして2016年に「創造都市さっぽろ」へ皆様にお越しいただけることを楽しみにしています。



雪まつりの新たな魅力「プロジェクション・マッピング」















# 世界冬の都市市長会とは

「世界冬の都市市長会」は、"冬は資源であり、財産である"とい うスローガンのもと、世界中の冬の都市が集まり、冬の技術や経 験、取り組みを学び合うためのネットワークです。かつては、北 方都市会議と呼ばれ、1981年に札幌市が提唱し、翌年、第1回の 市長会議を開催したのが始まりです。2004年には、さらなる発 展を目指し、名称を「世界冬の都市市長会」に変更しました。

冬の都市の市長が一堂に会し、快適な冬のまちづくりに有益 な情報や技術を共有しながら、地球環境問題のように世界が協 力しなければならない課題にも、国際社会の一員として取り組 んでいます。積雪寒冷という同じ環境にある海外都市とのこう した交流が、それぞれの都市にとって有形・無形の財産を築くこ とにつながっています。



市長会議で取組事例を発表する上田文雄会長(札幌市長)

### 冬の都市とは

積雪または寒冷という気象条件のもとでまちづくりを行う都市。

積雪の基準 · · · 1年間のうちで積雪量の最大値が概ね20cm(8インチ)以上となること。

寒冷の基準・・・1年間のうちで最も寒い月の平均気温がおおむね摂氏0度(華氏32度)以下となること。

















# 主な活動内容

# 前 長会議

世界冬の都市市長会の主要事業であり、2 年に1度開催されます。

これまで16回の会議が開催されており、地球環境 問題、都市計画、冬の都市交通、除排雪などについて、 市長同士が先駆都市の知恵と経験を共有し、まちづ くりへのヒントや厳しい気象条件を克服する手立て を学んできました。

市長会議は、市長自らが各都市の取組事例を紹介 し、都市経営の最高責任者である市長同士が膝を交 えて率直に意見交換を行うというユニークかつ格好 の機会となっています。



華川市長会議の様子

# 小 委員会

冬の都市の実務者・技術者が先進事例など を調査:研究する機関です。

これまでに、「観光促進小委員会」、「雪対策小委員 会」、「自然災害対策小委員会」、「持続可能な冬の都市 づくり小委員会」、「冬の都市環境問題小委員会」、「環 境保全小委員会」等が設置され、それぞれのテーマに 基づいて成果をまとめています。



小委員会報告書

## の見本市、冬の都市フォーラム

冬の見本市・冬の都市フォーラムは、市長会 議の期間中、同会議とともに開催されます。

「冬の見本市」は、開催市および会員都市の企業や団 体が中心となり、冬や雪に関連する機材や製品の展示 をはじめ、さまざまな技術の紹介を行うものです。

「冬の都市フォーラム」は、さまざまな分野の専門家 や学術研究者が、冬のライフスタイルやまちづくりな どについて発表する学術交流の場です。

1988年の第3回会議から市民も参加して開催され るようになり、世界冬の都市市長会議は、地域も巻き 込んだ大きなイベントに発展しました。



冬の見本市の様子

## 務者会議

会員都市の行政実務者が集まり、次回市長 会議の開催計画やテーマ、市長会の運営など について協議する会議です。会議は原則2年に1度、 事務局都市で開催されることになっています。

### 会員になるには

入会手続き: 会員になるには、入会を希望する都市の市長

が会長に入会を申請します。その後、役員会

に諮られ、入会が決定されます。

会 費: 会員都市は、都市人口と国民1人あたりの国

> 内総生産額(GDP)を基準として算出される 年会費を払わなければなりません。ただし、 入会初年度の会費納入金額は、年会費の半額

となります。

会員になると: 会員になると、市長会総会及び市長会議に出

席して発言し、表決に加わることができます。 また、市長会議の開催市に立候補することが できます。さらに、会員間に形成されているネ ットワークを活用してさまざまな分野で個別に

交流をすることができます。

申 込 み 先: 世界冬の都市市長会事務局

最新の会議内容やこれまでの成果についての詳しい情報を、世界冬の都市市長会のウェブページに掲載していますので、ぜひご覧下さい。 (http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/)

世界冬の都市市長会は、快適な冬のまちづくりについて、ともに考える会員都市を募集しています。入会の詳しい要件などについては、世界冬の都市 市長会事務局までお問い合わせください。













